

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2025 年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10 月 31 日	80
○ 2024 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集 (再) 締切 8 月 15 日	81
○ 農業農村工学サマーセミナー 2024 参加者募集! (第 2 報)	81
○ 農業農村工学会 若手交流の会 in 弘前 参加者募集! 申込締切 8 月 30 日	82
○ 2024 年度 修士課程 2 年生などの皆さん	
博士課程で取り組む研究課題を募集しています (第 2 期) 締切 9 月 30 日	82
○ お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	84
○ CPD 認定基準の一部改正 (2024 年度から) —「その他の自己学習 (x)」の上限値等の見直し—	84
○ CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	85
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	85
○ 「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	85
○ 改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	87
○ 2025 年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9 月 30 日	87
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと	
2024 年 7 月から 2026 年 6 月までの編集体制と編集事務局	88
○ 第 79 回中国四国支部講演会および第 48 回地方講習会の開催案内 (第 3 報) 参加・講演申込締切 9 月 2 日	89
○ 令和 6 年度九州沖縄支部大会 (第 105 回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会)	
の開催 (第 2 報) 参加・講演申込締切 8 月 30 日	90
○ 令和 6 年度農業農村整備サマーセミナー (第 60 回) の開催 8 月 27 日開催	92
○ 2024 年度土壌物理学会大会のご案内 ポスター発表・企業展示申込締切 9 月 20 日	92
○ 第 67 回粘土科学討論会の開催 9 月 4 ~ 6 日開催	93
○ 2024 年度計算力学技術者 (CAE 技術者) 上級アナリスト認定試験の案内 申込締切 9 月 13 日	93
○ 第 16 回「梶木賞」論文の募集 応募締切 10 月 25 日	93
○ 第 27 回 (2025 年) 日本水大賞の募集 応募締切 10 月 31 日	94
農業農村工学会論文集 内容紹介	95
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧	97
学会記事	98

第 92 巻第 9 号予定

展望: 江戸からの伝言—農業農村工学, 昔からある魅力—: 牧 千瑞

小特集: 農業農村工学の魅力発信

報文: 新潟日報・水利ゼミによる農業農村工学の役割と魅力の発信: 高橋良次ほか

報文: 関西国際大学の著者による農業農村工学の魅力発信: 北村浩二

報文: 農業環境工学分野の人材確保に向けた帯広畜産大学の取組み: 宗岡寿美ほか

報文: 学習マンガをきっかけとした農業農村工学の魅力発信の展開: 花田潤也ほか

技術リポート

北海道支部: 河川横断管におけるドローン調査結果報告: 久富裕太ほか

東北支部: 湛水防除排水工におけるプレキャスト樋管の施工事例: 畠山 真ほか

京都支部: 揚水ポンプにおける水撃作用の検討および対策: 中林真由ほか

中国四国支部: 基幹水利施設ストックマネジメント事業の工事事例: 牧本和明

九州沖縄支部: 沖縄県多良間村種子川地区におけるほ場整備排水計画工法: 前泊辰徳ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2024年9月 10～13日	大会運営委員会	2024年度（第73回）農業農村 工学会大会講演会 Ⓟ	—	弘前市	91巻12号、 92巻1、2、3、6、7号
2024年9月 12～14日	農業農村工学サマーセ ミナー 2024 実行委員 会	農業農村工学サマーセミナー 2024	—	弘前市・ オンライン	92巻7、8号
2024年10月 16～17日	中国四国支部	第79回支部講演会 第48回地方講習会 Ⓟ	—	鳥取県	92巻6、7、8号
2024年10月 31日～11月 1日	九州沖縄支部	令和6年度支部大会（第105回 講演会・講習会・シンポジウム ・現地見学会） Ⓟ	—	福岡市	92巻4、8号
2024年11月 19日	京都支部	第81回研究発表会 Ⓟ	—	奈良市	92巻4、6号

2025 年度農業農村工学会賞候補の推薦

2025 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、締切は、2024 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。は学会ホームページをご参照ください。

2025 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2019 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2021 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2021 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2023 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。	2023 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。	2022 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。	2019 年 10 月から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2014 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に 発表されたものとする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に 行った活動とする。	2022 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に 行った活動とする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に 行った活動とする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に 行ったものとする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に 行ったものとする。	2022 年 10 月 から 2024 年 9 月 まで に 制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2024 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人

推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う					
賞の決定	理事会において行う					
表彰	2025 年度(第 74 回) 農業農村工学会大会講演会において会長が授与する					
推薦締切	2024 年 10 月末日					
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛					

2024 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集 (再)

農業農村工学会では、平成 3 年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、学術基金の枠組みに新たに持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を追加し、公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

この度、学術基金の枠組みの内、次の 5 枠について新たに援助希望者の募集を行いますので、援助を希望される方は、学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/format/>)より申請書をダウンロードして、E-mail で学会事務局あてにお申し込みください。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・

研究の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進
 - ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
 - ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進
- (③と④については 2024 年度はすでに援助済み)

記

1. 申請締切 2024 年 8 月 15 日(木)
2. 援助金額 申請内容により学術基金運営委員会において援助金額を決定する。
3. 報告の義務 援助を受けた者は報告書を提出する。
4. 申込み・問合せ
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階
(公社) 農業農村工学会 学術基金運営委員会
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

農業農村工学サマーセミナー 2024 参加者募集! (第 2 報)

農業農村工学サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー 2024 の開催を企画しています。内容や参加費が決まり次第、サマーセミナーのホームページや会告等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論してみたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけれど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

1. 主 催 農業農村工学サマーセミナー 2024 実行委員会

浅野珠里 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
 浅津春花 (鳥取大学大学院連合農学研究科)
 岩崎隼也 (岩手大学大学院総合科学研究科)
 大塚健太郎 (岐阜大学大学院連合農学研究科)
 田崎小春 (鹿児島大学大学院連合農学研究科)
 高部侑汰 (弘前大学大学院農学生命科学研究科)
 鶴田純也 (若鈴コンサルタンツ株式会社)

西村 武 (弘前大学大学院農学生命科学研究科)

三村雪乃 (鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科)

2. 開催方式 現地、オンラインのハイブリッド
3. 日 時 現地 : 2024 年 9 月 12 日(木)~14 日(土)
 オンライン: 2024 年 9 月 12 日(木)~13 日(金)
 開始、終了時刻は現時点で未定
 (決まり次第、サマーセミナーホームページに記載します)
4. 対 象 学部学生、大学院生、若手社会人、若手研究者
5. 参加費 未定
6. 企画内容

以下のテーマでのディスカッションを予定しています。

【メインテーマ】

全国の NN 学生 & 社会人とガチ議論! リンゴから始める NN 学習

【サブテーマ】

・「リンゴ栽培アイデアコンペティション! ~重労働を

軽減する技術や仕組みを考えよう～」

- ・「あなたのおすすめツールは何？ 研究活動に有用なツールを紹介し合おう」

7. 問合せ

E-mail : n.n.summer.seminar@gmail.com

URL : <https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>

n-n-summer-seminar



農業農村工学会 若手交流の会 in 弘前 参加者募集！

若手交流の会（若手会）は、農業農村工学を学ぶ学生、若手研究者、若手社会人の交流を目的とした学生主催の懇親会です。普段なかなか会わない他大学の学生、社会人と話したり、お酒を飲んだりして交流してみませんか？ 多くの皆様のご参加をお待ちしております！ 参加申込みは、以下の内容をご確認ください。

1. 主 催 三浦恵祐, 高田裕次郎 (弘前大学大学院)

2. 日 時

2024年9月11日（水）19:00～（受付18:30～）（仮）

3. 対 象

学部学生, 大学院生, 若手社会人, 若手研究者

※学会のネームプレートをご持参ください。

4. 開催地 創作居酒屋花よりだんご（仮）

（弘前大学より徒歩10分）

5. 参加費 3,500円（仮）

6. 参加申込み方法

参加申込みは以下の①～⑤の内容を明記の上、問合せ先のメールアドレスへ送信いただくか、右記の二次元コードから、専用の申込みフォームに必要事項を記入して送信してください。



①氏名（漢字・フリガナ）②所属（大学・学部・学科）

③学年（学部生：B, 修士課程：M, 博士課程：D）



④連絡先（E-mail）⑤当日の連絡先（電話番号）

7. 事前申込み締切 2024年8月30日（金）

※締切り後の参加者追加はできません。参加希望の方は忘れずに申込みをお願いします。

8. 問合せ先

担当：弘前大学大学院 三浦恵祐

E-mail : n.n.wakatekai2024@gmail.com

2024年度 修士課程2年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています（第2期）

農業農村工学会では、2025年度支給開始「2024年度修士課程2年」学生などを対象に、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って、ふるってご応募ください。応募締切りは、2024年9月30日（月）17:00までです。

募集要領

1. 趣 旨

農業農村工学会（以下、「学会」という）は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な方針として、土地改良長期計画（2021年3月23日閣議決定）があります。それを技術面から支えるのが「農業農村整備に関する技術開発計画

（2021年11月公表, <https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>）であり、そこに示された「あるべき農業・農村の姿」の実現に資する重要課題に速やかに取り組むことが求められています。

一方で、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若手研究者が不足し、人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため、博士後期課程に進学し、研究に取り組もうとしている学生などの研究活動を支援するため、学会では、（一財）日本水土総合研究所（以下、「水土総研」という）（<http://www.jiid.or.jp>）の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」（以下、「支援事業」という）を創設し、博士後期課程学生への研

究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指します。

2. 対象者、募集人員および取り組む研究課題

【2025 年度支給開始対象者】

2024 年度修士課程 2 年（博士前期課程 2 年）在学の学生もしくは、その既修了者で 2025 年度に博士後期課程（一般）〔社会人コース等を除く〕に入学見込みの 40 歳未満（2025 年度末時点）の本学会の学生会員または正会員を対象とします。なお、募集時点で学会の会員でない申請者については、採用後に学生会員に入会することを要件とします。

今回（2024 年度 第 2 期）募集する研究課題数は、4 課題以内です。なお、現在博士後期課程に在籍している学生や社会人の博士後期課程学生は、支援事業の対象としません。また、日本学術振興会の特別研究員制度の採用者も対象としません（併願は可能ですが、重複受給は不可）。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、2021 年 3 月 23 日に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」に資する研究課題とします。考えている研究課題と技術開発計画との適合性など確認したいことがありましたら、気軽に事務局にお問い合わせください。

- (1) 土地改良長期計画の策定について：農林水産省(<https://www.maff.go.jp>)
- (2) 農業農村整備に関する技術開発計画(2021/11/26 公表)
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です（学会ホームページ <https://www.jsidre.or.jp/career-path/> を参照）。

4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1 研究課題当たり年間 100 万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士後期課程の 3 年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込みます。

6. 選考方法

(1) 書類審査

申請に必要な書類は次の 3 種類です。

- ①進学しようとする博士後期課程、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書（様式 1、顔写真添付）
- ②指導教員（応募時点）の推薦書（様式 2）
- ③これまでの業績リスト（様式 3）

(2) 面接審査

上記（1）書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式（様式 4、A4、2 ページ、最終年度は 4 ページ）に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また、水土総研におけるアソシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、「大学生の農業農村体験研修会」における必要に応じての参加、協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の募集期間および選考時期

募集期間 2024 年 8 月 1 日（木）9：00～9 月 30 日（月）
17：00（厳守）

面接 2024 年 12 月上旬

内定 2024 年 12 月末

9. 博士課程（後期）修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/career-path/>）より、申請様式 1～3（Word ファイル）をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mail の添付ファイル（Word ファイル）にて「8. 研究課題の募集期間および選考時期」に示す募集期間内に下記提出先に提出してください（郵送は受付しません）。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをお願いします。パスワードは、別途、メールにてお知らせください。

(※申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のみに利用します。学会ホームページ：<https://www.jsidre.or.jp> 参照)

提出先：農業農村工学会博士人材支援事業担当あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

11. 問合せ先

(公社)農業農村工学会 博士課程調査研究活動支援事業事務局

中 達雄, 中村充朗, 海老原茂樹

TEL：03-3436-3418

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

ポストコロナの社会的状況を踏まえ学会では2024年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

この度、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究(学会に一任)

(※特に記載がなければ(1)として扱います。)

(2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

③ ①, ②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ(https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置(一般損金算入限度額+特別損金算入限度額)が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 認定基準の一部改正(2024年度から)

—「その他の自己学習(x)」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下でCPDが評価され、また日本技術士会では「技術士(CPD認定)」の運用が始まるなど、CPDの活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の研修実績を正當に評価するため、2024年4月より、業務運営細則に定める「別表2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要なCPD運営体と同等の合計30cpd(現在は20cpd)となりました。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

(改正後)

形態	分類Ⅰ	分類Ⅱ	記号	cpd 単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	<u>x1</u>	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等	<u>x2</u>	0.5 H	<u>20</u>	－

(改正前)

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5 H	<u>10</u>	－

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 8 号掲載の問題は 9 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎月テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4 判、1,500 字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第92巻・第93巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第92巻第9号 農業農村工学の魅力発信 (仮)	終了
10号 進化するシミュレーションモデル (仮)	終了
11号 農業農村における野生鳥獣害対策の最前線 (仮)	終了
12号 —	公募なし
第93巻第1号 農業農村工学分野におけるAIの活用 (仮)	終了
2号 —	公募なし
3号 —	公募なし
4号 農村を安全に支えるには (仮)	10月10日
5号 食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開 (仮)	11月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第93巻第4号テーマ「農村を安全に支えるには」(仮)

農作業を行うため、また、農地や用排水路、ため池、農道などを支えるためには、人が現場に出ることが欠かせません。また、農村空間は、農業者だけではなく、地域住民など多くの人たちが利用する空間でもあります。しかし、残念なことに、農林水産省による「農業用排水路における安全管理の手引」をはじめさまざまな対策が講じられている中でも、農業用排水路やため池での水の事故、高所・法面での転落・転倒、車輛の転覆などによる死亡事故は後を絶ちません。また、豪雨時等に農地や農業用施設の見回りに出て亡くなる方も根絶できていないのが現状です。

このような事故の対策については、転落防止のための柵の整備、スマート農業やデジタルトランスフォーメーション推進のための作業の省力化・効率化や危険リスクの除去といったハ-

ード整備が考えられています。それと同時に、危険に近づかない、安全確保を最優先するといった意識面での対応、危険回避に関する広報の充実など、ソフトな施策の推進も必要であると考えられます。このように、農村を支える活動の安全を確保しつつ、安全な農村空間を形成することは、農村の振興を図る上で、緊急かつ重要な課題の一つです。

そこで、本小特集では、農村の安全に関する課題の現状分析から、対応策の提案、農村の安全に貢献する新技術の紹介および課題、過去の対応策の評価まで、ハードな整備とソフトな施策の両面から、農村を安全に支えるために必要な技術・施策を、施工現場における知見なども含め産学官民で幅広く検討するための報文を募集いたします。

学会誌第93巻第5号テーマ「食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開」(仮)

わが国の農業は、食料供給の安定化や環境保全において重要な役割を果たしています。しかし、気候変動や世界人口の増加に伴う食料需給の不安定化により、輸入依存に対するリスクが高まっています。他方、国内では主食用米の需要の減少傾向が続いており、麦・大豆や野菜など需要のある作物への転換が求められています。こうした背景の中、「食料・農業・農村基本法」が改正され、気候変動などによる災害の防止や軽減を図ることによって生産への悪影響を抑えることや、環境との調和および先端的な技術を活用した生産方式との適合に配慮しつつ、農業生産基盤の整備や保全のための施策を講じることが新たに位置づけられました。さらに、水田整備では汎用化に加えて畑地化が明記されました。

農業従事者の減少が進む中で、食料生産を増やし、同時に環境保全を実現するためには、抜本的な技術革新とともに、新た

な時代に即した農業生産基盤のリデザインが必要です。水田の畑地化や、社会実装されている使用者の監視下(目視)で無人の自律走行が可能なロボット農機の性能を発揮できる農地の整備など、これらの取組みを推進・発展させていくために、農業生産基盤の新たなあり方を議論することは重要と考えます。

本小特集では、食料供給の安定化や環境保全を両立させる持続可能な新たな農業生産基盤の構築に向けた報文を募集します。具体的には、水田の畑地化、農業生産の維持向上との両立を目指す気候変動への適応策や緩和策、先端的な技術を活用した生産方式やスマート農業の推進を視野に入れた農業農村整備に関する取組みや事例のほか、基盤整備の将来的な展望、地域ごとの課題や可能性、新たな時代に即した基盤整備の役割や取組みについての提案や構想を幅広く募集します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6 版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

2025 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2025 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 93 巻（2025 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含む A4 以上 B4 以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm、B4 は 257×364 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき 20 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 2024 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りします。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 93 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2024 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称: PAWE)を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2023年のインパクトファクター(IF)は1.9であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑輪換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界12カ国からEditor(22名)を選出することによ

り、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2024年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

・Editors 12カ国から22名

・Editorial Advisors 27名

・Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

・Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Naoko OKA

Rural Development Division, Japan International

Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS),
Japan

編集事務局 (2026 年 6 月まで日本担当)

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/>

10333) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であ
ること。

投稿要領等 : [https://link.springer.com/journal/10333/
submission-guidelines](https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines) に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度
からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。
冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会
員番号を明記の上、お申し込みください。

第 79 回中国四国支部講演会および第 48 回地方講習会の開催案内 (第 3 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、第 79 回支部講演会および第 48 回地方
講習会を下記の要領で開催するので案内いたします。

1. 日 程 (予定)

(1) 支部講演会

日 時 2024 年 10 月 16 日 (水) 10 : 00 ~ 17 : 00

会 場 とりぎん文化会館 (鳥取県立県民文化会館)

小ホール, 第 1, 2 会議室

〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町 101-5

TEL : 0857-21-8700

プログラム

受付開始 9 : 30 ~

開会式, 支部賞表彰式 10 : 00 ~ 10 : 25 (小ホール)

特別講演 10 : 40 ~ 12 : 00 (小ホール)

「鳥取砂丘を舞台に自然と人を繋ぎ・分かち合う」

〜心豊かな農ある暮らし〜

石谷依利子 (砂丘 YOGA 代表)

<昼食> 12 : 00 ~ 13 : 00

一般講演 13 : 00 ~ 17 : 00 (小ホール,

第 1, 2 会議室)

(2) 情報交換会

日 時 2024 年 10 月 16 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00

会 場 SOURCE BANQUET (ソースバンケット)

〒 680-0831 鳥取県鳥取市栄町 401-3F

TEL : 0857-21-3457

(3) 地方講習会

日 時 2024 年 10 月 17 日 (木) 9 : 00 ~ 12 : 00

会 場 とりぎん文化会館 (鳥取県立県民文化会館)

小ホール

〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町 101-5

TEL : 0857-21-8700

プログラム

受付開始 8 : 30 ~

講習会 9 : 00 ~ 11 : 40 講演 3 件

① 食料・農業・農村基本法の改正について

農林水産省農村振興局整備部設計課

課長補佐 池谷拓二

② 情報化施工技術の活用ガイドラインについて

農林水産省農村振興局整備部設計課

課長補佐 大津太郎

③ 「鳥取県農業水利施設サポートセンター」の取
組について (仮題)

鳥取県農林水産部農業振興局農地・水保全課

農林技師 日下靖之

閉会式 11 : 45 ~ 12 : 00

※地方講習会は、一部の講習が Web になる可能性が
あります。あらかじめご了承ください。

※詳細については、中国四国支部 Web ページにも掲
載しております。講演会での発表を希望される方は、
Web ページに掲載される情報にもご留意ください。
中国四国支部 Web ページ ([https://www.jsidre.
or.jp/tyugoku/](https://www.jsidre.or.jp/tyugoku/))

※小ホールについては、飲食禁止となっ
ておりますので、あらかじめご承知く
ださい。



2. 講演申込み方法

(1) 講演原稿

投稿者は、中国四国支部 Web ページに掲載の「講演
原稿の書き方」に従って原稿を作成し、原稿を PDF に

したファイルと投稿票をメールにより下記の講演会発表原稿提出窓口 (hyodo@tottori-u.ac.jp) までお送りください。「投稿票」は中国四国支部 Web ページからダウンロードしてください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演代表者の方は、必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

原則として、1人1課題です。発表形態は口頭発表です。各講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式になります。

(4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、原稿は、モノクロで収録されます。

(6) 原稿の提出締切

2024年9月2日(月) 必着

(7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

鳥取大学農学部 兵頭正浩
〒680-8553 鳥取県鳥取市南4丁目101番地
TEL: 0857-31-5912 E-mail: hyodo@tottori-u.ac.jp

3. 参加申込み方法

(1) 参加申込書

参加申込みについては、中国四国支部 Web ページに掲載の「参加申込書」をダウンロードし、所属機関ごとにまとめて、参加申込み窓口 (nouchi-mizu@pref.tottori.lg.jp) までメールでお送りください。その際、メールの件名は「【所属機関名】農業農村工学会支部講演会申

込み」としてください。

(2) 申込み期限

2024年9月2日(月) 必着

(3) 参加費

- ・講演会 参加費【一般: 2,000円, 学生: 無料】
- ・情報交換会 参加費【6,000円】
- ・地方講習会 参加費【一般: 2,000円, 学生: 無料】

(4) 参加費の納入方法

原則として、参加申込みに併せて銀行口座に全額前納での振込みをお願いいたします。振込手数料については、振込人負担をお願いいたします。また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入ください。なお、振込み後の参加費の返金については、原則として応じられませんのでご注意ください。

【振込口座】

○銀行名 山陰合同銀行 湖山出張所 (108)

○口座番号 (普通) 4529388

○名義人 農業農村工学会中国四国支部鳥取実行委員会
委員長 緒方英彦
(ノウギョウノウソンコウガクカイチュウゴクシコクシブツトリジツコウイインカイ)

(5) 支部講演会、情報交換会、地方講習会 参加申込み窓口・問合せ先

鳥取県農林水産部農業振興局農地・水保全課 川内大輔,
山本大輔, 官能優登
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL: 0857-26-7336

E-mail: nouchi-mizu@pref.tottori.lg.jp

※参加申込みと講演原稿提出窓口は別となりますのでご注意ください。

(6) 昼食・宿泊案内

昼食・宿泊の斡旋・手配等はいりませんので、各自での対応をお願いいたします。

令和6年度九州沖縄支部大会 (第105回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会) の開催(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日時

令和6年10月31日(木)

9:00~17:00 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

令和6年11月1日(金)

8:30~12:30 現地見学会

2. 会場

(1) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会・講習会

福岡県中小企業振興センター

(<http://www.joho-fukuoka.or.jp>)

〒812-0046 福岡県福岡市博多区吉塚本町9-15

TEL: 092-622-0011 FAX: 092-622-0014

(JR九州 吉塚駅(東口)より徒歩1分)

(2) 情報交換会は開催いたしません。

3. プログラム(予定)

(1) 10月31日(木) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

① 8:00~ 受付 (2階ホール前ロビー)

② 9:00~9:30 開会式 (2階ホール)

③ 9:30~10:00 支部賞授賞式 (2階ホール)

④ 10:00~11:10 シンポジウム (2階ホール)

「(仮題) 灌漑・土壌物理研究のこれまでとこれから」

農研機構でやったことと九州大学でやりたいこと」

講師：九州大学 岩田幸良

「(仮題) 農地環境の保全技術の展開と資源の有効利用」

講師：九州大学 金山素平

⑤ 11:10～12:00 講習会 (2階ホール)

「情報化施工技術の活用ガイドラインについて」

講師：農林水産省農村振興局整備部設計課
大津太郎

⑥ 12:00～15:00 講演会【ポスターセッション】

(4階第4会議室)

⑦ 13:00～17:00 講演会【オーラルセッション】

第1会場 (3階301A会議室)

第2会場 (3階301B会議室)

第3会場 (4階401A会議室)

第4会場 (4階401B会議室)

(2) 11月1日(金) 現地見学会

① 8:00～8:20 受付

② 8:30～12:30 現地見学会

集合時間: 8:00

集合場所: JR博多駅 筑紫口

予定コース: 出発地 (JR博多駅) → 災害復旧事業 (区画整理型) 妙見川流域 → 災害復旧事業山ノ神ため池 → 世界かんがい施設遺産山田堰 → 三連水車 → 博多駅

※予定コースは調整中のため変更する可能性があります。

※途中、昼食なし、休憩あり。また、交通事情により終了時間が前後することがあります。

4. 参加費

	講演会 (10/31)	講習会 (10/31)	現地見学会 (11/1)	昼食 (10/31)
一般料金 (会員)	4,000円	2,000円	3,000円	1,500円※
一般料金 (非会員)	5,000円	3,000円	4,000円	1,500円※
学生料金	2,000円	1,000円	2,000円	1,500円※

内訳

講演会、講習会、現地見学会: 参加費として (事前振込)

昼食: お弁当代として (※当日、受付にて現金でお支払いをお願いします)

5. 講演会 (オーラル・ポスターセッション) の発表申込み・発表方法

令和6年度支部大会の運営および参加申込受付は、大会運営事務局 (福岡県) が担当し、講演会の発表申込受付とプログラム編集は、九州沖縄支部事務局 (琉球大学) が担当します。

講演会の発表については、下記によりお申し込みください。

なお、オーラルセッションとポスターセッションの投稿方法は下記のとおり統一されています。また、学生会員 (学部生・研究生・大学院修士) はオーラルセッションではなく、ポスター

セッションにお申し込みください。

(1) 投稿方法

「講演要旨 (PDF形式)」と「講演会投稿票 (MS-Excel形式)」の各ファイルを E-mail に添付してご投稿ください。E-mail の件名には「2024 九州沖縄支部大会 (福岡)」と記載してください。

なお、講演要旨と講演会投稿票は、10. の支部ホームページからダウンロードしてご利用ください。

(2) 講演要旨・講演会投稿票の書き方

10. の支部ホームページから、「講演会投稿票・講演要旨の書き方及び電子投稿要領」をダウンロードし、ご参照ください。

また、過去15年以内に価値ある業績等を通算3回以上口頭で発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告制ですので、受賞対象者になると思われる方は講演会投稿票に必要事項を記入して申告してください。

(3) 投稿先 (九州沖縄支部事務局)

E-mail: s-naka@agr.u-ryukyu.ac.jp

(琉球大学農学部 中村真也)

(4) 投稿締切

令和6年8月30日(金)

(5) オーラルセッションの発表方法

1課題当たりの発表時間は質問・交代時間を含めて12～15分程度です。発表用機材としてパソコン (OS: Windows11, ソフト: MS-PowerPoint) とプロジェクターを大会運営事務局で用意します。OHP・スライド用機材は用意することができませんのでご了承ください。

なお、令和6年度は講演要旨集の印刷配布は行いません。10. の支部ホームページに掲載しますのでご確認ください。

(6) ポスターセッションの発表方法

原則として学生会員 (学部生・研究生・大学院修士) を対象に募集します。ポスター賞を若干名に授与します。事前のポスター送付は不要です。

なお、ポスターセッションは15時終了となる予定です。12～13時にコアタイムを設けており、当該時間において発表者は必ずポスターの前に滞在し、ポスターセッションをお願いします。

① 用紙および枚数

1課題当たりA0 (縦) 版1枚以内

② ポスターの掲示

10月31日(木) 11時までに、発表者の責任で掲示用パネルにポスターを掲示してください。掲示用パネルのサイズは (高さ) 2.10m × (幅) 1.80m となる予定です。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

本大会の参加申込受付については、西鉄旅行(株)を通じて行います。(2)の大会参加申込み URL からアクセスし、リンク先からお申し込みください。なお、講演会での発表希望者も参加申込みが必要です。

(2) 申込み先

大会参加申込み URL : <https://niccs.nishitetsutrans.jp/niccs/ja/app/DL45788>

【注意】

参加申込みに当たり申込み者情報および参加者情報を登録いただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。登録の際に提供いただく個人情報は、厳重な管理のもと本支部大会のみに使用させていただきます。また、登録による追加費用等は一切ございません。

(3) 申込期限

令和6年8月30日(金)

※定員になり次第、締め切りますので、早めにお申し込みください。

(4) 参加費の納入

本大会の講演会・講習会・現地見学会等の参加登録および参加費受領については、西鉄旅行(株)を通じて行います。参加登録完了後、お支払いに関するご案内メールが届きます。そちらからお手続きをお願いいたします。なお、振込手数料はご自身でご負担ください。

領収書は登録サイトより大会当日以降ダウンロード可能となります。ただし、参加費として講演会、講習会、現地見学会の3項目合算の領収書となります。

参加費納入、請求書・領収書についての問い合わせ等は9.大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先までご連絡ください。

※振込後の参加費等の返還には応じられませんので、ご注意ください。

(5) 講習会について

講習会のテキストは、講習会に参加申込みいただいた方のみの配布になります。

(6) 現地見学会について

保険適用の関係で、事前にお申し込みいただかない限り現地見学会には参加できません。申し込みがない方の当日参加はご対応できませんので、ご了承ください。

(7) 宿泊について

大会運営事務局では宿泊の斡旋・手配は行っておりません。

7. その他

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催方法および内容が変更となる場合があります。

8. 大会運営事務局

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局
(福岡県農林水産部農山漁村振興課技術管理係 担当:松吉)
〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園 7-7
TEL: 092-643-3504 FAX: 092-642-4605
E-mail: matsuyoshi-k9041@pref.fukuoka.lg.jp

9. 大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先

西鉄旅行(株) 担当:古田・八木・後藤
〒810-0014 福岡県福岡市中央区平尾 1-3-11
TEL: 092-525-2211 FAX: 092-525-3937
E-mail: ntc_fukuoka.1@nnr-g.com

10. 支部ホームページ

農業農村工学会九州沖縄支部ホームページ:
<https://www.jsidre.or.jp/kyusyu/>

令和6年度農業農村整備サマーセミナー(第60回)の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 全国農村振興技術連盟

後援 農業農村工学会

2. テーマ ため池の防災、管理・保全～平成30年7月豪雨被害を踏まえた対策とため池の管理・保全の進展～

3. 日時 2024年8月27日(火) 10:00～16:30

4. 会場 交通ビル会議室

〒105-0004 東京都港区新橋 5-15-5
(ハイブリッド開催)

5. 問合せ先

〒105-0004 東京都港区 5-34-4 農業土木会館内
全国農村振興技術連盟
TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176
E-mail: kensyu@n-renmei.jp

6. その他

申込方法等の詳細は、令和6年度農業農村整備サマーセミナーのホームページ(https://www.n-renmei.jp/training/training01_1.html)をご覧ください。

2024年度土壌物理学会大会の開催

1. 主催 土壌物理学会

協賛 農業農村工学会ほか

2. 日時 2024年10月19日(土) 9:30～17:30 (9:00受付開始)

3. 場 所 明治大学生田キャンパス第1校舎6号館
(講演会のみハイブリット開催)

宮本英揮 (佐賀大学農学部)

4. 参加費

無料 (印刷版要旨集希望者は要旨集代として1,000円、参加申込時にお申し込みください。)

5. プログラム

第66回講演会「最新数値手法・情報技術の土壌物理学研究・現場への適用」

(1) イオン交換を含む物質移動解析

田崎小春 (鹿児島大学大学院連合農学研究科)

(2) 物理法則を組み込んだ深層学習技術を用いた逆解析
及川航貴 (東京農工大学大学院農学研究科)

(3) AIを活用したダム堤体内の飽和・不飽和浸透流解析
本間雄亮 (農研機構農村工学研究部門)

(4) (仮)分散型無線センサネットワークを活用した多点土壌センシング

総合討論

ポスター・セッション／企業展示

6. 各種申込期間

ポスター発表登録: 2024年8月9日(金)～9月20日(金)

企業展示申込み: 2024年8月9日(金)～9月20日(金)

参加申込み: 2024年8月9日(金)～10月18日(金)

申込み方法: 土壌物理学会ホームページ上で参加登録をしてください。

7. 問合せ先

土壌物理学会事務局 西脇淳子 (東京農工大学大学院農学研究科)

E-mail: spmt2024@ml.affrc.go.jp

土壌物理学会ホームページ <https://js-soilphysics.com/conf>

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 明治大学農学部 土地資源学研究室気付

第67回粘土科学討論会の開催

1. 主 催 (一社)日本粘土学会

後 援 農業農村工学会ほか

2. 開催日 2024年9月4日(水)～6日(金)

3. 会 場 九州工業大学戸畑キャンパス

〒804-0065 福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1

4. 問合せ先

(一社)日本粘土学会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

5. その他

詳細は、第67回粘土科学討論会のホームページ (https://www.cssj2.org/event/annual_meeting/) をご覧ください。

2024年度計算力学技術者(CAE技術者)上級アナリスト認定試験の案内

1. 主 催 (一社)日本機械学会

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 試験日程

上級アナリスト認定試験

[固体力学分野]

2024年11月17日(日)または24日(日)

[熱流体力学分野]

2024年11月30日(土)または12月1日(日)

[振動分野]

2024年11月17日(日)または24日(日)

3. 申込受付期間

2024年8月27日(火)～9月13日(金)

4. 問合せ先

(一社)日本機械学会 事業企画グループ

E-mail: caenintei@jsme.or.jp

5. その他

詳細は、日本機械学会 計算力学技術者資格認定事業委員会のホームページ (<https://www.jsme.or.jp/cee/>) をご覧ください。

第16回「梶木賞」論文の募集

全国農村振興技術連盟では、将来の農業農村整備を担う若手技術者の皆様から、農村振興に対する自らの経験を踏まえた提言・抱負をまとめた、第16回「梶木賞」論文を募集いたします。

1. 主 催 全国農村振興技術連盟

後 援 農業農村工学会

2. 応募テーマ

農業・農村の直面している課題とその対応策

(テーマを踏まえ論文の内容にふさわしいタイトルを決めてください)

3. 応募資格

全国農村振興技術連盟会員ならびに農業土木系の学科に在籍している学生

4. 原稿

3,600字程度（上限3,800字）

写真・図の挿入は自由、提出原稿は横書き

5. 応募締切 2024年10月25日（金）**6. 応募先・問合せ先**

全国農村振興技術連盟 企画部

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館内

TEL：03-3434-5407 FAX：03-3578-7176

E-mail：kajiki@n-renmei.jp

7. その他詳細は、全国農村振興技術連盟 (<https://www.n-renmei.jp/>) のホームページをご覧ください。**第27回（2025年）日本水大賞の募集****1. 目的**

日本水大賞は、21世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環系の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

2. 対象範囲**(1) 対象となる活動分野**

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞が授与され、広く公表されます。なお、副賞は受賞活動をさらに継続・発展していただくよう授与されます。

大賞【グランプリ】

大臣賞

【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】

【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】

ほか

4. 選定の方法

日本水大賞委員会のもとに、上記の賞を選考するために審査部会を設置し、表彰対象となる活動が審査され、最終的には日

本水大賞委員会で決定されます。

5. 募集期間

2024年7月7日（日）～10月31日（木）（郵送の場合は当日消印有効）

6. 応募方法

応募用紙（4枚）に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を送付または持参してください。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mailでも応募を受け付けます（メール送信後、必ず確認の電話をしてください）。

応募方法の詳細はホームページを参照してください。

7. 主催等**(1) 主催** 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮皇嗣殿下

委員長 毛利 衛（日本科学未来館名誉館長）

国土交通省

(2) 後援 農業農村工学会ほか**(3) 協賛** 「川の日」実行委員会ほか**8. 送付先・問合せ先**

日本水大賞委員会事務局

（公社）日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.Kビル 3階

TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426

E-mail：taisyo@japanriver.or.jp

平日 9：15～17：30

9. その他詳細は、日本水大賞のホームページ (<https://www.japanriver.or.jp/taisyo/>) をご覧ください。